

地域の高齢者施設を訪ねてポッチャ交流

教育課程上の位置付 総合的な学習の時間

実施概要

高等部2年生が施設を訪問し、ポッチャによる交流をしました。
施設1階のデイ活動室で、利用者と生徒との混合チーム4チーム(1チーム9名、うち生徒は2名から3名)を作り、コート2面を使ってゲームを行いました。
学校は、これまで生徒の実習先としての施設とのつながりはありませんでしたが、社会貢献活動は初めてでした。

- 活動参加者** 当校 生徒…11人 担当教員…2人
- 内訳** 交流先 利用者…25人 担当職員…6人
- 交通手段** 当校と信愛泉苑との距離はおよそ1.3km
徒歩で訪問 約20分



ジャックボールに近付きますように

活動報告 実施日:11月2日(木)

施設利用者が、デイ活動室で椅子に座って待つなか、生徒たちが登場し、利用者に拍手で迎えられました。

開会の挨拶等が終わると、生徒たちは利用者の座る席の間に入り、それぞれに自己紹介を兼ね、会話を交しました。その間、担当教員はあらかじめ位置決めていた床面にラインテープを貼り、ポッチャのコートを作り、その後、ポッチャとルールの説明を行いました。チーム分けは、それぞれの列の中央で分けて、2列×2チームの4チームが編成されました。

最初のゲームでは、各チームから、それぞれ3名ずつ利用者が出て、ゲームに取り組みました。ボールを投げる利用者の中には、真剣な眼差しで、ジャックボールに近付けるように腕をしっかりと伸ばすなど、工夫する場面も見られました。生徒は、利用者の投球に声援を送ったり、利用者がボールを投げる前にアドバイスしたりする姿も見られ、また、審判を務める生徒もいました。

次のゲームでは利用者と生徒の混合チームでゲームを行いました。利用者も生徒もチームの応援のために、場所を変えながら言葉を掛けたり拍手をしたり、活気ある、にぎやかな交流となりました。

当日のスケジュール

- 13:10 学校、施設、SSC、都教委4者事前打合せ(施設ロビー)
- 13:35 生徒が引率教員と施設に到着→到着後、手の消毒と活動準備
- 13:40 開会に先立ち、センター長より利用者に向け、本日の活動紹介
開会 挨拶(生徒代表)
- 13:45 ゲームの説明の後、グループ分け(生徒と利用者の混合チーム)
グループ内でお互いに自己紹介の後、試合開始
(グループ交代)
- 14:20 ゲーム終了
- 14:25 終わりの挨拶(生徒代表)
施設センター長感想 学校:担当教員より挨拶
- 14:30 閉会 終了後、引率教員と生徒は施設を学校に向け出発

■活動のために準備したもの

- ポッチャセット
- コート作成用ラインテープ
- 勝利チームを示すためのボード

■工夫したところ

座席を意図的に利用者の方々の中に設定しました。

■実施にあたって注意したところ

コミュニケーションがうまく取れないことがあった際には、無理をしないように事前に生徒に指導しました。また、プレーだけではなく運営にも生徒が関わる環境設定を行いました。

■良かったと思うところ

初対面ではあったが、利用者の方々との生徒がコミュニケーションをきちんと取れたところ。また運営に係わることができました。

■今後に向けての学校からの抱負

近隣の施設とこのような形でつながりができたので、この御縁を大事にしていきたいと思います。

活動の感想

生徒・教員の感想

- 生徒**
 - ポッチャという競技を交えて会話をしたり、やり方を丁寧に教えたりすることができたので、すごく良い機会でした。
 - 久々に高齢の方々と一緒に遊べて、楽しかったです。
 - とても良い交流ができました。
- 教員**
 - 単なる交流ではなく「社会貢献」という視点から考えて、本校の生徒たちがどのように取り組めるだろうかと思案しました。事前学習で「貢献」とは何か、という内容に触れましたが、ユニバーサルスポーツを通じた活動の中で、自然な形で利用者の皆様にアシストが行えたことが、まず何よりの成果であると捉えています。高等部の生徒として、進路決定にも好影響を与える一日になったと感じています。

施設の参加利用者・担当者の感想

- 利用者**
 - 孫のような子供たちが来てくれて、一緒に遊べて楽しかったです。
 - ポッチャはやってみて面白かったです。これからもやってみたいと思います。
 - 時間が短かったので余り話せなかったけれども、孫みたいで楽しかったです。
 - 私は一人で住んでおり、孫は近くにはいないので、子供たちが来てくれて本当に良かったです。
- センター長**
 - 今回、武蔵台学園と泉苑ケアセンターの交流会は初めてでしたが、とても和やかで楽しい時間が過ごせました。子供たちを見て喜ぶ高齢者の姿、おじいちゃん・おばあちゃんの元気に笑顔になる子供たち…お互いに色々なことを感じながら、刺激にもなったのではないかと思います。ある男性の高齢者は、いつもの活動日以上に元気に過ごされていました。これも子供たちと一緒に活動をした効果だと思えます。職員としても、意外な一面を見付けることができた機会だったと感じています。武蔵台学園の皆さんがお帰りになったあと、「また来ないかね。」とご利用者からの話もありました。今回の交流をきっかけに、地域の中で新たな絆になっていければと思います。機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

■実施までの経過 ※(コ):コーディネーター

- 8月3日 (コ)、学校を訪問。担当教員と打合せ
- 8月9日 (コ)、施設を訪問。施設長に当事業を説明。施設長、当事業にはケアセンターで対応と快諾。
- 8月21日 (コ)、ケアセンターのセンター長を訪問。センター長に説明、快諾。センター長の要望を聞き、学校に連絡
- 10月16日 担当教諭2名と(コ)で施設を訪問。活動内容を説明し、センター長快諾。実施日日程を決定。活動場所を確認



利用者さんに見守られて、開会のあいさつ



あのボールの間を狙いましょう



交流先

社会福祉法人 多摩同胞会
特別養護老人ホーム信愛泉苑
泉苑ケアセンター

住所:東京都府中市武蔵台1-10-4

■施設概要

- 通所介護事業(デイサービス) 定員30名
- 予防介護事業